知る 学ぶ 遊ぶ 天竜川ひろば

天竜川に関する施設の情報をお届けします。

飯田市 天竜川総合学習館「かわらんべ」 飯田市川路 7674 番地 TEL0265-27-6115 →中面イラストマップ内 D

春の企画展 「伊那谷の桜」

期間／3月23日(水)～5月21日(土)入場無料

次第に暖かくなり、春の足音が聞こえてくる今日この頃。
かわらんべでは、この季節にぴったりの「桜」の企画展を行います。伊那谷に自生している桜や、寺社などに植えられている桜など、20種類ほどの桜を30枚のパネル写真＆解説で紹介します。

樹齢400年以上とも言われるしだれ桜(飯田市座光寺)。

かわらんべ講座「子ども研究員発表会」

開催日／3月26日(土)

かわらんべでは『子ども研究員制度』を設けております。これは、子どもたちが自然や環境について、自分で興味を持った分野を自由に研究できるよう作られた制度です。「研究したい！」という意思さえあれば、研究を発表する子どもたちがいつでも誰でも研究員になれます。現在、「鳥」・「動物の骨」・「岩石」などについてがんばって研究している「子ども研究員」がいます。
そんな子どもたちの成果が、『子ども研究員発表会』で発表されます。皆様ぜひ一度見学に来てください。また、子ども研究員を希望される方も、いつでもかわらんべまでお申し付けください。

イキイキとした表情で

子ども研究員募集しています！

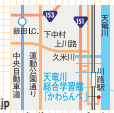
●3月講座スケジュール

24日(木)「写真講座３」[大人対象] AM9:30～AM11:30

大好評の写真講座もついに最終回。飯田市の写真家・宮島功さんを講師にお招きし、きれいな写真の撮り方を学びます。今回のテーマは「画面作りを学ぼう」です。
※持ち物／筆記用具、カメラ、前回の作品
（写真講座１・２に出てなくてもＯＫ！）

26日(土)「研究発表と草もち作り」AM9:00～PM12:00

今年度最後のかわらんべ講座は、かわらんべ子ども研究員の「研究発表会」と、早春の野に生えるヨモギを摘んでの「草もち作り」です。
今年度の総決算！ぜひ皆様でお越しください。
※持ち物／筆記用具、エプロン



●開館時間／AM9:00～PM5:00
●休館日／毎週月曜日および祝日の翌日
●Eメール kawaranbe@tenjo.go.jp
◆ホームページ http://www.tenjo.go.jp/kawaranbe/

天竜川の仲間たち

天竜川で活躍する団体からのお知らせ

伊那小学校 4年智組

カヌーをつくって遊ぶ活動を通して身近な自然とふれ合う

みんなで力を合わせ、カヌーを制作中。表情は真剣です。

私たち伊那小学校４年智組は、総合学習で『川で遊びながら自然と親しもう』をテーマに、川で遊んだり川を調べたりしています。カヌービルダーの養口健二さんの指導で９月に段ボールを使ったカヌーを６艇つくり、10月からは学校のプールや美和湖や千代田湖でカヌーに乗って遊んできました。『段ボールカヌー』といっても、長さ３m、FRP(繊維強化プラスチック)や木材を使うなどして防水対策を施した本格的なものです。カヌーに乗ると目線が水面とほぼ同じになり、水鳥にでもなった気持ちになります。また大自然の中に抱かれている自分を感じます。川を見る子どもたちの視野がより広く深くなりました。子どもたちは10月22日から行われた『市民交流バザール』に参加し、伊那市民の皆さんにカヌー学習についての発表をしました。さらに11月16日、美和ダム管理事務所の皆さんの支援により三峰川上流探検をし、11月19日には小黒川上流で台風23号により発生した土石流の爪痕を調査するなど子どもたちは伊那谷の多彩な自然の姿を肌で感じてきました。子どもたちは今、木でパドルをつくっています。その後、木でカヌーをつくって、美和湖などでもっとカヌー遊びをしようと計画しています。そして機会をとらえてカヌー遊びの楽しさやそこから見える伊那谷の自然の豊かさを地域に知らせていきたいと思います。

伊那谷の自然にふれる小さな冒険へいざ出発！

伊那市立伊那小学校　北澤夏樹
http://www.ina-ngn.ed.jp/~inasho/
TEL 0265-72-5205

知ってナットク なるほど！天竜川

一瞬にして村を飲み込んだ、大西山の大崩壊(大鹿村)。

三六災(サブロクサイ)を知っていますか？

昭和36年6月、伊那谷は記録的な豪雨に見舞われ、各地で堤防の決壊、土石流、がけ崩れなどが発生しました。大鹿村では大西山が崩れ落ち、東京ドーム2.5杯分に相当する土砂と岩石が集落を直撃。39戸の家屋を一瞬にして押しつぶし、死者・行方不明者42人の大惨事となりました。
その他各地でも多くの尊い生命や財産を奪ったこの災害は「三六災」と呼ばれ語り継がれてきました。現在は、当時より安全性が向上しているとはいえ、天竜川流域の厳しい自然条件や災害の歴史を考えると、危険性が無いとは言えません。自然の営みは、人の生活の変化に関わらず続いているのです。災害の恐ろしさや教訓を風化させず、次世代に伝えていくことが大切です。

集中豪雨で「暴れ天竜」となった天竜川。大量の水と土砂が、山や沢から支流へ、支流から本流へと一気に流れ込みました。

■三六災の被害

死　者	101人
行方不明者	29人
重 軽 傷 者	1,155人
被 災 住 家	13,953戸

36災伊那谷災害復旧工事報告書(長野県土木部)より

国土交通省
天竜川上流河川事務所

●みなさまからの情報、ご要望などをお待ちしています。

天竜川上流河川事務所「天竜川通信」係
〒399-4114 長野県駒ヶ根市上穂南7-10
TEL 0265-81-6413 FAX 0265-81-6421
Eメール tenjyo@cbr.mlit.go.jp

次号は平成17年夏発行予定です

●ホームページでは天竜川の「現在水位」や、いざというときの「浸水想定区域図」など防災情報も発信しています

ホームページアドレス
http://www.cbr.mlit.go.jp/tenjyo/

本紙は、再生紙を使用しています。

Tenryu River Times

笑顔、きらきら、天竜川。
天竜川上流
河川事務所

天竜川通信

2005 spring vol.6

「天竜川通信」では、四季折々の自然、遊び、川を舞台にした活動、新しいニュースなど、天竜川の魅力再発見につながる情報をお届けします。
天竜川を“見る”“遊ぶ”“学ぶ”“体験する”ツールとして、ぜひお役立てください。

「水引工芸」

心も「結ぶ」伝統の技
その名の由来は川にあり

祝儀袋などを飾る水引は、元禄時代から約300年続く飯田の伝統工芸で生産量は日本一！原料である木の繊維を取り出すため“川の水にさらして木の皮を引く”工程から、その名が付けられたとか。川の恵みが育んだ文化のひとつです。

「伝統漁法」

川の恵みを受けて暮らす、流域ならではの文化

産卵するために集まったウグイを投網で漁獲する「つけ場漁」
川幅いっぱいに張った網に石や竹ざおで魚を追い込む「刺し網漁」など、
天竜川に代々受け継がれてきた漁法の数々。
やな漁やザザムシ漁は季節の風物詩となっています。

「焼き物」

始まりは土管だった!?
城下町の歴史を伝える職人の技

高遠焼は天竜川流域で生まれた焼き物のひとつ。1812年、高遠城内に水を引くため美濃より陶工を招き土管を焼いたのが始まりと言われています。錆分の多い土にうわくすりなどを用いて焼く、田舎風の素朴さが風合いの焼き物です。

「郷土芸能」

人形芝居、歌舞伎など
天竜川流域は民俗芸能の宝庫

天竜川流域にはきく から続く民俗芸能が脈々と見ついています。
中でも伊那四座と呼ばれる早稲田・今田・黒田・吉田の人形芝居や大唐歌舞伎、遠山の霜月まつりなどは文化財にも指定され、地域をあげて保存と伝承に力を注いでいます。

懐かしい手の温もり。
それが、
ふるさとの技。

天竜川の「技」を訪ねて

一つ一つに手間ひまと情熱をかけ、先人の知恵と工夫を今に受け継ぐ「技」の数々。
伊那谷に息づくそれらを訪ねて、ふるさとの新たな一面にふれてみませんか。

「受け継がれる治水の技」

洪水と闘ってきた伊那谷の歴史を語る治水工事。
コンクリートが使われる以前の江戸・明治時代では、
石やぁ、竹などを利用し、とまどまな知恵と工夫で
洪水から暮らしを守ってきました。
これらの河川伝統工法は今も流域のあちらこちらで
見ることができます。

「おばあちゃんの技に挑戦」

おややと言えば、信州の家庭に伝わる代表的なおふくろの味。
旬の素材を使って、おややつくりにチャレンジしよう！

春が香る ふき味噌おやき

【材料(5～6個分)】
薄力粉・強力粉 ――― 各８０グラム
ベーキングパウダー ― 小さじ１
水(塩少々入れる) ― １００ｃｃ
(ふき味噌)
ふき ――――――― ５本
ごま油 ――――――― 大さじ１
信州味噌 ――――― 大さじ２／３
砂糖・酒 ――――― 各大さじ１
みりん ――――――― 大さじ１／２

作り方
1. 粉とベーキングパウダーをよく混ぜ、水を少しずつ入れて耳たぶくらいの固さまでこねた後、１時間ほど冷蔵庫でねかせる。
2. ふきは熱湯でゆく 抜きし、すじを取り粗みじん切りにして、ごま油でめめる。
3. 砂糖、酒、味噌を加え、味噌が全体にからまったらみりんを加える。
4. １を５～６等分し、生地を伸ばしながらふを包む。
5. 油をひいたフライパンで両面に焦げ目をつけ、弱火で５分ほど蒸し焼きにする。

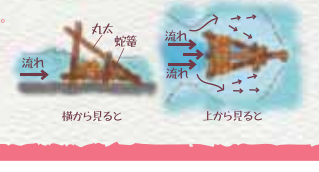
断面を見ると

蛇篭(じゃかご)

篭に石を詰めて並べ、堤防を犬天に固めます。

蛇篭とは鉄線(針ょ竹)で編んだカゴに石をつめたもの。
蛇に似た姿からこの名がつきました。
横に並べて堤防を補強したり、聖牛の重しにも利用。
石と石のすきまは生き物のすみ家にもなります。

聖牛(せいぎゅう)

武田信玄も活用!?
丸太を組んで、川の流れを弱めます。

三角に組み立てた丸太を、石などの重しを使って川底にしっかりと固定。
水力とが増して勢いが強くなった川の流れを弱めます。
戦国時代に武田信玄が活用し各地に広めたと言われています。